

生徒一人一人の“夢や自分らしい生き方”を応援する学校づくり

福島市立福島第四中学校天神スクール

主幹教諭 桑原 裕矢

1 はじめに

夜間中学は戦後の混乱期の中で、生活困窮などの理由から昼間に就労または家事手伝い等を余儀なくされた学齢生徒に、義務教育の機会を提供することを目的として設置された学校である。現在は、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、本国や日本で義務教育を修了していない外国籍の方など、様々な背景をもつ生徒の多様な学びを保障する「学びのセーフティネット」としての役割を果たしている。本校は、こうした方々の学びを支援するために、福島県初の公立夜間中学として令和6年4月に開校した。

現在、本校には31名の生徒が在籍している。生徒の年代は10代から80代までと幅広く、学ぶ目的や国籍、社会経験等は多様であるものの、「天神スクールで学ぶことで、自分の人生をよりよくしたい」という思いは全員に共通している。

このことから、私たちは「生徒一人一人が“夢や自分らしい生き方”を実現し、彩りあふれる豊かで幸せな人生を送ってほしい」という願いをもち、生徒一人一人が思い描く「夢」、「人生」、「なりたい姿」や「ありたい姿」の実現に向けた学びを支えている。



2 天神スクールの学校運営に対する生徒や教員の声

本校生徒を対象として令和8年2月に実施したアンケートでは、本校の教育活動について次のような回答が得られた。

質問項目	肯定的な回答
1 安心・安全な学校生活を送ることができている。	100%
2 学校に行くのは楽しいと思う。	100%
3 教師は、わかる授業づくりに努めている。	100%
4 学級の生徒の間では、思いやりをもって関わり合い、話し合い活動にも取り組むことができる。	94%
5 キャリア学習を通して、自分のよさに気づき、自分のこれからの生き方について考えようとしている。	89%
6 学校行事や体験活動（校外学習、スポーツ大会、学習発表会など）は充実し、多くのことを学んでいる。	100%
7 先生は、何かあるとすぐに相談にのってくれる。	100%

※各質問に対して「よくあてはまる」「少しあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で回答し、「よくあてはまる」「少しあてはまる」の回答を肯定的な回答としている。

8 天神スクールのよさや誇りに思えることはどんなことですか。（自由記述）
<ul style="list-style-type: none">○ 年齢に関係なく学ぶことができる。○ とても楽しく勉強ができる。○ 学びたいことに、学習内容を合わせてくれる。○ 先生たちが丁寧に教えてくれるので、授業がよくわかる。○ クラスメイトが情熱をもって学ぶ姿に、とても良い刺激をもらっている。先生が熱心にサポートしてくれ、授業もわかりやすく工夫してくれているので、安心して学校に通うことができる。○ 先生や生徒のみなさんが優しく、久しぶりの登校でもおっくうにならない。○ 先生たちがとても優しい。学校にいと安心する。家ででのストレスも、学校に登校するとなくなる。

また、本校教員を対象に実施した「仕事に対するやりがい」に関するアンケートでは、次のような結果が得られた。

質 問 項 目	肯定的な回答
○ 仕事に対してやりがいをもって働くことができますか。	100%

※質問に対する4段階の回答のうち、「やりがいをもって働くことができている」「どちらかといえばやりがいをもって働くことができている」の回答を肯定的な回答としている。

これらから天神スクールは、生徒にとって「学びがいのある場所」、教員にとって「働きがいのある場所」であるとともに、生徒と教員の双方にとって大切な「居場所」の1つとなっているといえる。

以下では、このような結果につながった本校の実践について紹介する。

3 実践の内容

(1) 理想とする学校の姿を共有する

校内研修や教育課程編成等の場で、理想とする「天神スクール」（公立夜間中学）の姿について全教員で話し合い、イメージを共有することにした。

- 天神スクールを例えると「渡り鳥の休憩地」である。長い人生の途中で一時的に羽を休める場所であり、心と体のエネルギーが溜まり、自信が高まったら、夢の実現に向けて再び羽ばたく場所である。天神スクールの教員は、生徒一人一人を応援し、サポートするのが役割である。
- 学校で過ごす時間が「幸せな時間」「贅沢な時間」と感じてもらえるようにしたい。
- 「今日は仕事が大変だったけど、学校に来てよかった」と言ってもらえるようにしたい。
- 不登校を経験した方でも「安心して登校できる学校」「行きたい!!と思える学校」にしたい。
- 年齢や国籍などの多様性を生かして、生徒が互いに学び合える学校にしたい。
- よりよい人生や日常生活の向上につながるような学びを提供したい。
- 公立夜間中学であり、教員免許を持った教員が授業を担当するのだから、「わかる」「できる」授業とともに、各教科等の見方・考え方を働かせた、教科の本質が伝わる学びを提供したい。

このように全教員が生徒一人一人を思い浮かべながら「理想とする学校の姿」について話し合うことで、想いが込められた学校やカリキュラムを創ることができた。

(2) 教育活動の方向性を明確にする

理想とする学校の姿や生徒の実態及びニーズを基にして、校内研究のテーマや仮説等を設定することで、本校の教育活動の方向性を明確にした。

本校では「学ぶ＝人生をよりよくする」という視点を持ち、生徒一人一人の自己実現を支援するために、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を推進するとともに、「キャリア教育」の視点からカリキュラムを編成することで、生徒に「社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力」を育むことにした。

研究主題 夜間中学生徒の“夢や自分らしい生き方”を支援するキャリア教育
研究副主題 生徒一人一人の“well-being”が向上するオーダーメイドの教育（研究2年次）
【研究仮説】

- A 安心して学べる環境を基盤として、「well-beingの向上」を視点としたオーダーメイドの教育の充実を図り、学校の教育活動全体を通して、
- B 社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力を育成するとともに、
- C 生徒一人一人の自己効力感を高めることができれば、
 生徒は“夢や自分らしい生き方”の実現に向けて進むことができるであろう。

研究2年次である令和7年度には、生徒一人一人の“well-being”に着目するとともに、オーダーメイドの教育を取り入れたことで、生徒一人一人が「学びたいことを、自分のペースで無理なく学べる」ようにカリキュラムを編成したり、生徒一人一人に適した学習環境を整備したりすることができた。

(3) 生徒支援の実際

安心して学べる居場所づくり

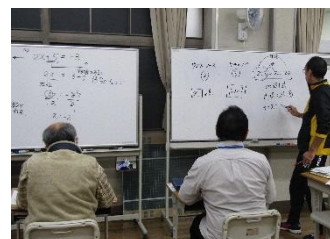
- ・互いの個性やよさ、人権、多様性等を認め合う風土の醸成
- ・失敗を恐れず、安心して夢や可能性に挑戦するための基盤となる共感的な人間関係の形成
- ・「充実感・満足感・喜び」等が味わえる授業や学校行事の充実
- ・学校や学級への所属感を得られる、スポーツ大会や校外学習等の共同的な活動を取り入れた多様な学校行事の充実
- ・年間5回の教育相談の実施（5月、7月、9月、11月、2月）
- ・複数担任制の実施と、全教員で生徒一人一人を見守る体制づくり



スポーツ大会（モルック）

「わかる」「できる」授業の充実

- ・ティーム・ティーチングによるきめ細かな支援体制の充実（全教科）
- ・ユニバーサルデザインの視点による授業づくり
- ・特別の教育課程による小学校の学習内容の一部を取扱った学び直し
- ・習熟度に応じたコース別学習の実施（数学、英語）
※数学はティーム・ティーチングを生かし、個別学習を基本としている
- ・個別の支援計画（全員作成）に基づくオーダーメイドの授業の充実



数学の授業の様子

社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力の育成

- ・「読み、書き、計算」「日本語」等の日常生活や将来につながる基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・自己の生き方に結び付けた教科横断的・探究的な学習の推進
- ・心と体の健康を保持増進する健康マネジメント力の育成
- ・社会に参画しようとする意欲・態度や、他者と円滑にコミュニケーションをとる力の育成
- ・卒業後の進路に応じたコース別キャリア学習の実施（進学、就労、日本語、資格取得 等）
- ・関係機関との連携によるサポート体制の充実（地域若者サポートセンター、就労移行支援事業所、医療機関（精神科）等）



ビジネスコミュニケーション講座

自己効力感の涵養

- ・生徒一人一人のよさや特技等が発揮できる機会の設定
- ・「読み、書き、計算」「日本語」等の習得や、成功体験を重ねることによる自信や尊厳の回復
- ・自己選択や自己決定等の機会の意図的設定
- ・「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を感受できる授業づくりや環境づくり
(例) 下校時の言葉かけ「〇〇さん、今日もお疲れ様。また明日ね!!」



日本語の授業

「2 天神スクールの学校運営に対する生徒や教員の声」において、本校生徒が学習活動に積極的に取り組むとともに、学校生活へ高い満足度を示している理由として、生徒一人一人が目標に向かって努力していることや、級友や教員と良好な関係を築き、学びや学校生活に楽しみを見出していることが推察される。また、上記のような教員による意図的かつ計画的な生徒への働きかけや学習環境の整備が高い効果を上げていると考えられる。

(4) 高いチーム力とやりがいを実感できる職場づくり

生徒の学びをチームで支える

本校では、全ての教科の授業においてティーム・ティーチングの体制をとっており、サポーターとして授業に参加する教員は時間割上に位置付けて運用している。授業に向けて、勤務開始後から生徒が登校するまでの時間（13:30～17:00）を活用し、授業者とサポーターの教員が打合せを行い、学習内容や必要とする支援等を確認している。また、自分の授業が無い時間帯には、積極的に他教科の授業を参観したり、生徒の学習を支援したりすることも多い。



スクールカウンセラーが勤務する日には、生徒が登校するまでの時間を活用し、全教員が参加するコンサルテーションを行っている。情報を共有するとともに、専門的な助言を得ることができるので、生徒の支援方針を決めるうえで非常に有効な取り組みであると言える。

学校課題をチームで解決する

本校の教員は公立夜間中学での勤務が初めてであるため、公立夜間中学の学校運営や学習支援、生活支援等はどうすればよいか、全てが手探りだった。そのため全教員が集まり、一つ一つの学校課題に対して、自分の考えや思い、経験等を共有し、話し合うことで合意を形成し、解決してきた。生徒が真剣に学びに向かう姿から刺激得るとともに、職場の同僚性が高く、風通しのよさが、教員の「やりがい」「働きがい」につながっている。

研修によってチーム力を高める

本校の教員は全員初めての公立夜間中学勤務であることから、夜間中学に特化した校内研修に重点を置いている。夜間中学の教員としての指導力を高めることで、生徒一人一人の“夢や自分らしい生き方”の実現につなげたいと考えたからである。



校内研修（就労支援）

本校には幅広い年代の生徒が在籍しており、生徒の国籍や学ぶ目的、卒業後の進路などが多様である学校であるため、校外の関係機関から講師を招いての研修を多数実施している。（地域若者サポートステーション、就労移行支援事業所、精神科医等）

4 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 様々な工夫により、生徒にとって天神スクールが「居場所」であり、生活や人生を豊かにする場所となることができた。本校の実践を、昼間の小中学校における不登校の未然防止に役立てたい。
- 天神スクールの入学をきっかけとして、新たな夢が持てた生徒や、職場や家庭の生活が向上した生徒が増えた。
- 天神スクール（公立夜間中学）の認知度が上がっていない。入学希望者の減少は、学校の活気の低下につながるとともに、教育活動の幅が狭まることにつながる。学齢期の児童生徒が通う、昼間の学校の教員にも、本校の教育活動について周知したい。
- 公立夜間中学と昼間の中学校では時間帯が異なるため、生徒同士の交流が難しい。本校の生徒が生き生きと学ぶ姿を見ることは、学齢期の児童生徒にとって「学び」を考える機会になると考える。